

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	よろず保育園
活動期間	R6.11.15
クラス名(年齢)	ひまわり組(5歳児)
年間テーマ	水

1.活動テーマ

<テーマ>

園外保育 『水の科学館 ～水のふしぎを探しに行こう！～』

<テーマの設定理由(子どもの姿)>

水への科学的な興味がわいている子どもたちに、水のふしぎを様々な形で知り、探求心に応えてくれる施設への遠足を企画した。自然の中にある水だけでなく、家庭に届く水道のふしぎに触れられるようにした。

2.活動スケジュール

R6.11.15 水の科学館へ行く

R6.11.18 振り返り

3.活動のために準備した素材や道具、環境の設定

東京都水の科学館 展示

4.探究活動の実践

<活動内容>

『水のたびシアター』で地球を循環している水を知る。森で生まれた水がどのようにして家庭に届き、自分たちのももて使い、そしてまた雲になって還っていく過程を、様々な展示から発見する。身近な水のふしぎ、凍ったり流れたりするふしぎな性質を、実験コーナーで実際に体験する。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

子どもの言葉・姿	写真
シアター『水のたび』を最初に全員で見た。森に降る雨が集まって、ダムに蓄えられて各家庭に届き、使った水は処理されてまた海に還っていく流れを知った。ダムのシーンでは自分たちが運動会で演じた“滝”と同じように見えて「この水滝に続いてるよ!」「落ちたー!」水の一部になって体感できる状況にハラハラドキドキ。森と水のつながりを知る展示のコーナーでは、森が『緑のダム』と呼ばれている理由を知った。続いて実験コーナーへ。水を張った大きな容器の中では、光の屈折で中に置いたものが見えなくなり…「あ、消えた」「なんで??」。水あそびのコーナーでは、丸や三角のパーツを変えると水の流れが変わっていくのを見て、「三分一湧水だ!」と発見。家庭に届く水のコーナーでは食物の中に含まれる水の量を知り「こんなに入っているんだ」と驚いていた。	

5.振り返り(振り返りによって得た保育者の気づき)

地球をめぐる水のことを、体験を伴って知ることができた。「三分一湧水だ!」という気づきには、ひまわり旅行で見た用水路の姿を、自分たちの手で実際にパーツを動かして水の流れを変えて試したからこそ、新鮮な発見があった。やってみて“本当だった”“すごい”と知ることの面白さ、そこからまた新たな気づきに繋がっていく様子に、体験を伴って心を動かしていく過程が大事であることを学んだ。